

バーゼル委員会、銀行監督に関する原則の改訂案についてコメントを募集

2006年4月6日

バーゼル銀行監督委員会は、本日、「実効的な銀行監督のためのコアとなる諸原則」(1997年)及び「コア・プリンシプル・メソドロジー」(1999年)の改訂版を公表し、パブリック・コメントを求めた。

バーゼル・コア・プリンシプルは、各国が自国の監督制度の質を評価し、健全な監督実務を確保するために今後何をすべきかを把握する際の基準として用いられてきた。また、コア・プリンシプルは、国際通貨基金(IMF)と世界銀行の金融セクター評価プログラム(Financial Sector Assessment Program)の一環としても用いられてきた。しかし、過去数年来、銀行に対する規制には変化が生じており、また、個別国におけるコア・プリンシプルの実施経験も蓄積されてきた。こうした変化や経験を反映するための改訂を行うことにより、コア・プリンシプルの有効性と有益性が維持されることになろう。

バーゼル銀行監督委員会の議長であり、スペイン中央銀行総裁である Jaime Caruana 氏は、「1997年以来、バーゼル・コア・プリンシプルは世界各国の監督実務を強化することに多大な貢献を果たしてきた。我々は、バーゼル・コア・プリンシプルの実効性を維持するとともに継続性を高めることに意を用い、所要の変更のみを加える。本日我々が公表する文書は、バーゼル銀行監督委員会と、同僚である世界各国の監督当局、IMF及び世界銀行の協力の成果である。今回の作業は、広範な国々の参加を得ることによって、我々の作業の効率性及び成果の質が如何に向上するかを示す例である」と述べた。

バーゼル銀行監督委員会のメンバーであり、改訂プロジェクトのリーダーである Göran Lind 氏は、「コア・プリンシプルは、全ての国にとって、また様々な金融システムにとって有益なものとする、また、様々なシステムや構造や経験を反映することを旨として策定されている。我々は、今回の市中協議から更なるフィードバックが得られることを期待している」と述べた。

世界各国に適用し得る柔軟な基準としてのバーゼル・コア・プリンシプルの価値を維持するため、今回の改訂による変更は最小限にとどめられた。改訂さ

れたコア・プリンシプルでは、引続き銀行監督に焦点が当てられている。銀行監督が実効的であるために必要なインフラストラクチャーに関する諸点は前提条件として論じられており、これらの前提条件は監督制度を評価する際の背景となる。

今回の改訂により、バーゼル・コア・プリンシプルは、発達した銀行システムと、発達途上にある銀行システムの双方において実効的な監督を確保し得るよう柔軟性を高めた。また、国境及び業態をまたがる傾向や動向、あるいは、異なる業態や国の監督当局間におけるより緊密な協力と情報交換に対するニーズがより包括的に反映されている。更に、改訂版では、銀行監督当局の独立性、説明責任及び透明性の重要性が強調されている。

銀行に対して統合的なリスク管理システムの採用を勧奨し、異なるリスクの間に共通する側面を全て取り扱う、新しい包括(umbrella)原則が加えられた。また、金利リスク、流動性リスク及びオペレーショナル・リスクに対する関心の高まりを反映し、これらのリスクを評価するための基準が強化された。マネーロンダリングやテロ資金供給との戦い及び不正の防止を取り扱う基準も拡充された。

バーゼル・コア・プリンシプルとその他の関連する国際基準との整合性を高めるため、当委員会は保険監督者国際機構、証券監督者国際機構、金融活動作業部会及び支払・決済システム委員会と協力を行った。

改訂作業を行うに当り、当委員会は 1997 年版コア・プリンシプルとの継続性及び比較可能性を確保することを心掛けた。本改訂は、1997 年版コア・プリンシプルに基づいて行われた各国評価や改革提案をはじめ、既に行われた作業の妥当性を如何なる意味でも覆すものではない。

参考のため、1999 年版メソドロジーの評価基準と改訂版の評価基準を比較した文書も掲載されている。本文書は、評価基準の各部分について 2 つの版を比較し易いように構成されている。

バーゼル・コア・プリンシプル及びメソドロジーの改訂案に対するコメントは、2006 年 6 月 23 日迄に下記に送付されたい。

Basel Committee on Banking Supervision

Bank for International Settlements
Centralbahnplatz 2
CH-4002 Basel
Switzerland

また、コメントは、baselcommittee@bis.org 宛てに、電子メールで送付することもできる（本電子メール・アドレスはコメント送付専用であり、通信目的での使用はできない）。